

# 第3部 ごみゼロおおいた作戦 環境関連事業の取組状況

## 第1章 平成26年度実施事業の取組結果

### 1 豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	企画振興部	ユネスコエコパーク推進事業	特別枠	1,500	自然と共生した地域振興を目的に、祖母・傾山系を中心とした地域をユネスコエコパークに登録するための検討を関係市等とともに行った。祖母傾ユネスコエコパーク推進協議会の開催、登録申請に向けての関係省庁、関係市との協議、調整の実施。
2	企画振興部	魅力ある景観づくり推進事業	継続	10,029	景観資源の有効活用による観光振興、地域活力の再生を目的に、九州自然歩道や標識等を改修し、利用者の利便性・安全性が向上した。
3	企画振興部	観光施設維持管理調査事業	継続	23,820	県有観光施設、九州自然歩道、久住山避難小屋トイレなどの維持管理等を実施した。
4	企画振興部	農山漁村ツーリズム推進事業	継続	2,245	・事務担当者連絡会議を開催 ・県外旅行会社、学校へセールス活動を実施
5	生活環境部	おおいたジオパーク推進事業	継続 (一部特別枠)	18,004	○懸賞論文(学術研究論文・調査研究レポート)の募集による調査研究の推進 ・ガイドブック、解説板、ジオガイドスキルアップ研修等への活用等 ○地質愛好家に向けた情報発信の強化 ・雑誌社向けモニターツアーを10月に実施 6誌6名参加 雑誌・Webサイトへの掲載 アンケート調査による課題の抽出と改善に向けた検討 ○動植物概況調査等を実施
6	生活環境部	おおいた生物多様性保全・普及啓発事業 (森林環境保全基金：2,800)	継続 (一部新規)	6,399	○奥山地域の植生等モニタリング及び対策の検討 H23～H25に実施した奥山地域調査箇所を設置したシカ防護柵の効果や植生変化の状況に関するモニタリングを行い、今後の保護対策を検討する。 ○絶滅危惧種の保護(6団体に委託) ・NPO法人水辺に遊ぶ会(カプトガニ) ・NPO法人猪の瀬戸湿原保全の会(ヒメユリ・ヒゴタイ等) ・大分ため池データバンク(ハッチョウトンボ・オニバス等) ・大分県貝類談話会(オナガラシオイガイ) ・NPO法人初島森林植物園ネットワーク(ハコネシケチシダ) ・NPO法人国東市手と手とまちづくりたい(ウミガメ) ○アライグマ対策 ・国東半島・宇佐地域で実態調査の実施 ・実態調査等を踏まえ、関係市町担当者会議を開催 ・防除講習会の開催(日出町) ○特定外来生物の駆除(2団体に委託) ・九重の自然を守る会(オオハンゴンソウ) ・郷土日田の自然調査会(オオキンケイギク・ブラジルチドメグサ) ○生物多様性の普及啓発 生物多様性の認知と理解の促進を図るためのフォーラムを実施(9月20日農業文化公園で実施) ○地域生物多様性対策協議会の設置 市町村、NPO等様々な主体からなる地域生物多様性対策協議会の設置に係る補助を実施。(九重町)

平成26年度実施事業の取組結果

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
7	生活環境部	希少野生動植物保護事業	継続	1,463	○指定希少野生動植物検討会の実施 クボハゼ及びチクゼンハゼ（ハゼ科）を指定（H26.5.7） オナガラムシオイガイ（ムシオイガイ科）を指定見込（H27.3.31） ○希少野生動植物保護推進員研修会の実施（現地 H26.11.29、個別 H26.12.9） ○随時、普及啓発（県庁 HP、リーフレット作成・配布、看板の作成等）
8	生活環境部	自然環境保全管理費	継続	2,574	○名勝耶馬溪の巡視 ・西部及び北部振興局において名勝耶馬溪の巡視を実施 ○審査・許可 ・自然公園法及び大分県立自然公園条例に基づく許可・届出等件数 許可：102件、届出：18件、協議：14件
9	生活環境部	温泉対策事業	継続	12,821	○温泉部会：7回開催 ・5/27、7/29、9/2、9/29、12/1、1/26、3/26 ○許可件数 ・掘削：71件、増掘：9件、動力：38件
10	商工労働部	県産竹材利用促進事業 (森林環境保全基金：3,260)	継続	2,943	大分県の竹工芸の文化や技術、高い芸術性を広く一般に理解してもらうとともに、建築・芸術分野における県産竹材の活用促進を図るため、竹材による大きなオブジェの作製・展示を行うとともに、竹工芸の創業を支援する。 ○竹材オブジェ製作 ・6/9～7/18 オブジェのデザイン画全国公募(118点応募) ・7/25～7/30 デザイン画展示会及び審査（展示場所：the bridge、3点選出） ・8月～10月末オブジェ製作中 ・11月～3月オブジェ展示（iichiko 総合文化ホール内） ○貸し工房による竹工芸創業支援（入居者3名）
11	商工労働部	竹工芸品海外販路開拓事業 (森林環境保全基金：3,800)	継続	3,800	県産竹製品の海外への販路開拓及びブランド化のため、米国市場に適合する新製品「テーブルセンターピース」を開発。9/20から10/19の間、米国ロサンゼルスで竹工芸企画展を開催し商談等を実施した。
12	農林水産部	漁場環境保全推進事業 (漁場クリーンアップ事業)	継続	440	佐伯市が実施する漁業に被害を与えるサメ等有害動植物の駆除を支援した。5月に打合せを実施し事業に着手し、シュモクザメ等19尾、ツメタガイ260kgを駆除した。
13	農林水産部	森と海をつなぐ環境保全推進事業	継続	575	漁業被害を防止するため、大分県漁業協同組合が実施する泊地などに滞留する流木等を除去、回収するための経費を助成した。大分地区において8月の台風11号により発生した流木等330㎡の回収を行った。
14	農林水産部	世界農業遺産ブランド推進事業	継続	17,506	世界農業遺産認定地域としてのブランドを確立するため、地域産品のブランド化や継承活動への支援、地域間交流の促進、観光客・見学者等の受け入れ体制の整備、および生物多様性地域セミナーへの支援を実施した。
15	農林水産部	鳥獣被害総合対策事業	継続	626,348	防護柵の設置や捕獲等に要する経費に対して助成を行うことで、イノシシ・シカ等による農林作物被害を軽減した。また、被害集落に対する指導・助言や相談活動等を行うとともに、狩猟肉の有効活用に向けたフェアを開催した。その他、鳥獣害対策アドバイザー養成研修、女性猟師による講演会、銃猟初心者を対象とした射撃場での実践研修会を行うことで、狩猟者の確保、初心者の方の技術向上等を図った。
16	農林水産部	森林シカ被害防止対策事業 (森林環境保全基金：67,157)	継続	93,953	シカによる森林被害の軽減を図るため、防護柵等の設置に要する経費、個体数調整のための捕獲を進めるための捕獲報償金に対する助成を行った。

平成26年度実施事業の取組結果

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
17	農林水産部	鳥獣害と戦う集落支援事業	継続	4,654	鳥獣害と戦う意欲のある集落を選定し、ネット柵と捕獲わなを設置し、シカ等の捕獲活動を行った。また、サル被害の多い数集落を重点集落と位置づけ、効果的な対策の実証を行った。
18	農林水産部	森林環境保全推進事業	継続	306,164	森林環境を保全し、県民意識の醸成を図るため必要な経費の財源を確保することを目的に導入された森林環境税の税込及び使途を明確にするため、森林環境保全基金として積み立てし、税込の一元的な管理を行った。
19	農林水産部	みんなで支える森林づくり推進事業 (森林環境保全基金：8,344)	継続	4,633	森づくり大会の開催等により、県民総参加の森林づくりの気運を醸成した。また、森林づくり委員会を3回開催し、森林環境税事業の成果の検証等を行った。育林等の新技術開発のため「新たな育林技術研究開発事業」を実施した。
20	農林水産部	おおいたの森林づくり広報推進事業 (森林環境保全基金：1,996)	継続	1,778	森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」を推進するため、新聞、ラジオ等各種媒体を利用した広報活動を行った。
21	農林水産部	森林づくりボランティア活動促進事業 (森林環境保全基金：26,403)	継続	25,226	森林ボランティア活動を推進するため、森林ボランティアのための研修会（初級1回、中級1回、上級2回）を開催した。県民による森林づくり提案事業を推進した。
22	農林水産部	竹林環境改善整備事業 (森林環境保全基金：38,612)	新規	28,726	竹林の有効利用を図るため、主要観光地周辺や大分空港道路沿線における荒廃竹林の伐採・整理、タケノコ生産林への誘導等を行った。
23	農林水産部	森林環境教育推進事業 (森林環境保全基金：7,485)	継続	7,239	県内小学校等や地域で開催される研修会等に森の先生を派遣し、森林体験活動を支援した。特別保護樹木のうち樹勢が悪化しているものに大規模な特殊保全作業を実施した。次代の森づくり活動リーダーを育成する研修を支援した。木材に対する意識醸成や知識獲得を目指す「木育」を推進した。
24	農林水産部	環境緑化推進事業	継続	1,703	緑豊かな住みよい県土を創造するため、第5次大分県緑化基本計画に基づき、総合的に環境緑化を推進する。みどりの少年団のつどい、各団への奨励金の補助。県が指定する特別保護樹木の保全事業を行った。
25	農林水産部	緑のふるさとづくり推進事業	継続	5,117	緑豊かな住みよい県土を創造するため、大分県環境緑化条例に基づき緑化に関する知識の普及及び意識の高揚を図るとともに、県民の緑化に関する活動を助長するため、緑化苗木の交付及び県民の要請に応じて技術指導等を行った。
26	農林水産部	公共施設等緑化事業	継続	3,002	大分県環境緑化条例に基づき、県民の利用度の高い公共施設等の緑化事業を実施する。平成26年度は大分県立美術館で事業を実施した。
27	農林水産部	造林事業 (保育間伐推進緊急対策事業)	継続	177,070	3～7齢級の若齢林の保育間伐を促進するため、県、市町村の上乗せにより、公共造林事業の補助率を嵩上げし、健全で活力ある森林の維持を図った。
28	農林水産部	造林事業（再造林促進緊急対策事業）	継続	58,718	20%以上の広葉樹の植栽を伴う再造林に対して、公共造林事業の補助率を5%嵩上げすることで、森林所有者の森林造成意欲を喚起し、再造林の促進と森林の有する公益的機能の低下防止を図った。
29	農林水産部	再造林促進事業 (森林環境保全基金：66,600)	継続	307,387	林業経営適地内で、植栽本数を減らし低コストで再造林を実施する森林所有者に対し上乗せ助成を行い、林業の持続的な経営と森林の公益的機能の回復を図った。
30	農林水産部	荒廃人工林緊急整備事業 (森林環境保全基金：56,265)	継続	31,710	災害発生等が懸念される間伐放棄林や造林未済地について、更新伐、強度間伐や再造林を実施し、公益的機能が発揮できる健全な森林に誘導した。
31	農林水産部	農業農村多面的機能支払事業	新規	284,550	地域共同で行う、農業の多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動を支援した。 (取組面積25,000ha)

# 平成26年度実施事業の取組結果

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
32	農林水産部	環境にやさしい農業農村整備推進事業 (農地諸費)	継続	401	生態系や景観に配慮した事業を推進するため、有識者による環境情報協議会を開催し、環境にやさしい農業農村整備事業の計画を策定した。
33	土木建築部	道路維持修繕費	継続	1,612,815	県管理道路の草刈り、清掃、街路樹の剪定等の環境整備を実施した。
34	土木建築部	河川海岸維持管理費	継続	62,497	地域のボランティア団体等を担い手にして、市町村へ河川の草刈り清掃の委託を実施した。
35	土木建築部	ふる里の水辺づくりサポート事業	継続	5,320	河川管理施設の保持につながる美化活動等の総合的管理活動を地域住民などの愛護団体と協働により行うことで、うるおいのある水辺空間の形成、安定的な河川の維持管理を図った。
36	土木建築部	海岸環境整備事業	継続	212,827	台風、高潮、波浪による被害を防ぐために海岸保全施設の整備を進めることにより、地域住民の人命・財産の保全と国東半島における重要な幹線道路である国道213号の通行確保といった効果が得られた。(決算額のうち37,002千円は平成27年度に繰越して実施)
37	土木建築部	港湾管理	継続	23,831	港湾施設の草刈り、清掃、ごみ拾い等といった維持管理を実施した。 (大分、別府、臼杵、佐伯、中津、国東の各港湾施設)
38	土木建築部	海岸環境整備事業(港湾)	継続	65,013	護岸等の整備により背後地の防護・利用・環境の調和のとれた事業を実施した。
39	土木建築部	港湾環境整備事業	継続	16,304	親水緑地や防災拠点緑地の整備による港湾環境の向上を図った。
40	土木建築部	砂防維持管理費	新規	2,700	観光都市別府を流れる都市河川として古くから市民に親しまれている境川・春木川において、周辺住民のボランティア活動が及ばない場所について草刈りを実施した。
41	土木建築部	屋外広告物指導費	継続	2,169	違反広告物の簡易除却を定期的に行うなど、屋外広告物の指導・取り締まりを実施した。
42	土木建築部	県営都市公園里山利活用推進事業 (森林環境保全基金：3,051)	新規	2,286	県営都市公園の里山や竹林を利活用し、県民の自然体験や環境学習等の機会を設け、県民参加による里山や竹林の再生の推進と自然環境保全への意識が醸成できた。
43	土木建築部	きれいな水再生啓発事業	新規	756	大分県生活排水対策基本方針に基づき合併処理浄化槽への転換促進等を目的として、生活排水処理率の低い地域等において啓発活動を実施し、生活排水対策の意識向上の推進が図れた。
44	企業局	ダム濁水対策事業	継続	7,425	北川ダムの濁水長期化軽減につながる、佐伯広域森林組合が実施する植林事業「北川上流の森復活大作戦」や、NPO法人「宇目まちづくり協議会」が実施する北川ダム集水域における河川清掃活動への支援を実施した。
(44事業)		小 計		4,086,441	

## 2 循環を基調とする地域社会の構築

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	福祉保健部	社会福祉法人指導監督 事業費	継続	1,294	監査の一環として、社会福祉施設の給排水施設、浄化槽等の適正な管理について指導した。
2	福祉保健部	医療関係行政指導事業	継続	212	医療施設に対する立入検査の一環として、医療廃棄物の適正処理を指導した。
3	福祉保健部	薬務取締事業	継続	191	毒物劇物・医薬品・医療機器関係施設に対する立入検査を行い、毒物劇物等の適正使用及び保管管理に対する指導を行った。
4	生活環境部	3R普及推進事業 (産業廃棄物税基金：8,820)	継続	8,090	リデュース、リユース、リサイクルの3Rを通じた循環型社会の構築に向け、また、3Rを通じて温暖化対策に貢献していくため、レジ袋無料配布中止の取組を更に推進するとともに、広報媒体の活用により3Rの必要性について県民に周知を図った。

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
5	生活環境部	水質保全対策事業	継続	28,850	河川や海域などの公共用水域と地下水の水質汚濁の状況を年間を通じて計画的に調査し、水質汚濁防止法に基づく工場や事業場に規制、指導等を行った。
6	生活環境部	特殊公害対策費	継続	1,936	自動車騒音常時監視、航空機騒音調査等の調査を行うとともに、市町村担当者向けの騒音・振動・悪臭講習会を実施した。
7	生活環境部	大気保全対策事業	継続	22,580	大気環境保全のための大気環境の監視及び事業所に対する指導・監督を実施した。
8	生活環境部	ダイオキシン総合対策推進事業	継続	15,795	ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、県下のダイオキシン類による環境汚染の実態把握や常時監視及び指導を行った。
9	生活環境部	有害化学物質対策推進事業	継続	1,973	有害大気汚染物質について、県内4定点でのモニタリング調査を行うとともに、PRTR 制度に基づく事業者からの届出の受理等を行った。
10	生活環境部	公害対策関係受託事業	継続	19,055	環境放射能水準調査、化学物質実態調査及び酸性雨モニタリング調査等を実施した。また、広域総合水質調査測定業務を実施した。
11	生活環境部	石綿健康被害救済基金拠出事業	継続	13,960	「石綿による健康被害の救済に関する法律」に基づき創設された石綿健康被害救済基金に対し拠出を行った。
12	生活環境部	小規模給水施設普及支援事業	継続	26,311	公営水道の整備が困難な小規模集落等の水問題を解決するため、中長期計画を作成し積極的に給水施設整備に取り組む市町村に対し支援を行った。
13	生活環境部	大気環境監視推進事業	継続	47,880	大気常時監視測定局の新設、PM2.5測定機の整備を行い、県下の大気環境監視体制を強化した。また、九州各県と連携し大陸からの越境汚染についての観測調査を行った。
14	生活環境部	豊かな水環境創出事業 (森林環境保全基金：9,284)	新規	7,983	生活や産業に直結しており、住民の関心が高い河川をモデル河川に指定し、流域を単位として生活排水対策等の水環境保全活動を促進した。 モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川
15	生活環境部	環境放射線緊急時モニタリング体制強化事業	特別枠	988	原発事故発生時等緊急時における適切な防護措置の判断に資するため実施する環境放射線モニタリングの実施体制を整備した。
16	生活環境部	産業廃棄物適正処理推進事業	継続	268,650	産業廃棄物税の税収を、一元的に管理するために産業廃棄物税基金への積み立てを5月末、9月末、12月末、27年3月末に行った。
17	生活環境部	産業廃棄物処理施設等監視指導事業 (産業廃棄物税基金：47,311)	継続	47,311	①産業廃棄物監視員（嘱託10名）による監視指導を実施した。 ②排出事業者、産業廃棄物処理業者への立入調査等を実施した。 ③行政代執行事案の早期発見、再発防止を目的に、最終処分場設置者及び中間処理業者の経営状況を把握するための、公認会計士を活用した経営審査を実施した。 ④優良な処理業者へ誘導するための制度の普及・推進を図った。
18	生活環境部	廃棄物不法投棄防止対策事業 (産業廃棄物税基金：49,093)	継続	49,396	①保健所設置市が行う不法投棄対策事業に対し補助を行った。 ②不法投棄防止対策を行う市町村に対し補助を行った。(10市町) ③監視カメラの設置による不法投棄防止重点監視対策を行った。 ④マニフェスト交付状況報告書により、排出処理状況を把握し、産業廃棄物の減量化等の目標の進行管理を行った。 ⑤投棄者不明で地域的美観を損なう比較的大規模の不法投棄廃棄物の撤去を行った。 ⑥第4次廃棄物処理計画の基となる廃棄物処理状況等の基礎調査を行った。
19	生活環境部	産業廃棄物処理施設周辺環境対策事業 (産業廃棄物税基金：3,563)	継続	5,844	市町村・産業廃棄物処理施設設置者が処理施設周辺の環境整備を行う場合に事業に要する経費を補助した。

# 平成26年度実施事業の取組結果

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
20	生活環境部	県外産業廃棄物対策事業	継続	109,350	①産業廃棄物適正化条例に基づき納付される環境保全協力金を基金に積み立てた。②県外産業廃棄物監視員（嘱託2名）を廃棄物対策課に配置し、県外から搬入される産業廃棄物の監視を行った。③県外排出事業者への立入調査を行った。④県外産廃を受け入れる県内処理施設への立入調査を行った。⑤保健所設置市が行う県外産業廃棄物対策事業に対する補助を行った。⑥県外排出事業者との事業協議及び環境保全協力金の納付指導を行った。⑦平成25年度に策定した指針に基づいて、放射性物質に汚染された可能性のある産業廃棄物の県内への搬入を防止するとともに、県外産業廃棄物を受け入れている産業廃棄物処理施設の放射線量を定期的に調査した。⑧県外から搬入される産業廃棄物の理化学的な性状検査を実施し、不適物が搬入されていないか監視した。
21	生活環境部	産業廃棄物広報・啓発推進事業 (産業廃棄物税基金：4,783)	継続	4,783	ラジオ放送及び新聞広報を通じて、県民に廃棄物の不法投棄防止や PCB 廃棄物の早期処理、産業廃棄物の排出抑制・再生利用の必要性を呼びかけた。
22	生活環境部	県保管 PCB 廃棄物適正処理推進事業	継続	198,078	県が保管する PCB 廃棄物を法が定める処理期限内に処理した。
23	生活環境部	PCB 廃棄物対策推進事業 (産業廃棄物税基金：6,853)	継続	6,853	PCB 廃棄物処理費用負担能力が低い中小企業を支援するため、PCB 廃棄物処理基金への拠出を行った。なお、処理状況やこれまでの基金の造成状況等も勘案し、平成26年度からは国及び都道府県の基金への拠出額が減額した。
24	生活環境部	森と海とつなぐ環境保全推進事業 (森林環境保全基金：2,000)	継続	1,822	海岸に漂着した流木等について、NPO、自治会等が行う回収・撤去活動に要する経費に対し補助を行った。(10団体実施)
25	生活環境部	海岸漂着物地域対策推進事業	新規	84,159	①県又は市町村が事業主体となって行う海岸漂着物等の回収処理及び発生抑制対策にかかる経費を助成した。(6市、4土木事務所へ経費助成) ②海岸漂着物等の実態調査を実施した。③ごみゼロ作戦と連携した県民参加のビーチクリーンと併せ環境イベントを実施した。
26	生活環境部	環境整備指導事業	継続	12,288	清掃船により別府湾海域の漂流物等の清掃活動を行っている公益社団法人別府湾をきれいにする会に対し支援を行った。
27	生活環境部	一般廃棄物対策事業	継続	1,092	一般廃棄物処理に関する指導、監督等を実施した。
28	農林水産部	GAP実践農業者支援事業	新規	2,373	マーケットニーズのある GAP の導入を企業的農家や広域的な部会の生産者に対して図り、有利販売につなげた。また、GAP を実践する意義や利点について、生産者のみならず消費者にも広く理解してもらい、社会全体で GAP に取り組む気運を高めた。 【取組状況】 1 普及指導員等の指導者養成 ・JGAP 基礎研修 (6月12日、13日 9名) ・GAP の産地リーダー養成研修 (7月3日、4日 10名) 2 推進会議の開催 ・GAP 推進会議開催 (4月24日～5月23日 8回) 3 普及・標準 GAP の導入支援(生産者への指導、助成) ・JGAP 基礎研修受講補助 (7名) ・JGAP 等認証取得支援 (2件) ・外部コンサルによる GAP 現地研修 (9月～3月 12回)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
29	農林水産部	環境保全型農業推進事業	継続	9,555	安全・安心で環境と調和のとれた農業生産を推進するため、「環境保全型農業直接支援対策」やIPM（総合的病害虫・雑草管理）技術の導入に取り組むとともに、マーケット起点の商品づくりに対応した新しい農産物認証制度を設立した。IPM（総合的病害虫・雑草管理）技術の導入に2件取り組んだ。また、e-na おおいた認証制度推進費を認証団体へ委託した。
30	農林水産部	土壌保全推進事業	継続	3,582	土壌の維持管理を適正に行うため、土壌診断体制の整備や土壌管理に対する指導を行うとともに土壌汚染対策の検討を行った。
31	農林水産部	有機農業産地育成推進事業	新規	536	有機農業をめざす新規就農者の受入れ体制を整備するとともに、就農した有機農業者に対する栽培技術向上のためのフォローアップ対策や流通支援対策を実施し、有機農業者の生産力と販売力の向上を図った。 関係機関の受入れ体制の整備として、有機JAS認証研修を実施した。新規有機農業者等の生産力向上支援として、3名を対象として先進的な農家を指導者として派遣した。有機農産物の認証支援では、2件が事業を活用した。有機農業販売支援対策として、有機流通アドバイザー2名を設置し、流通拡大を図った。
32	農林水産部	環境保全型畜産確立対策推進事業	継続	359	畜産環境保全に対処するため、総合的な指導推進体制の整備、巡回指導の実施等を行った。
33	農林水産部	木質バイオマス熱利用促進事業	新規	37,800	木質バイオマス資源（パーク）の有効活用を図るため、木質バイオマスボイラーを整備する経費の一部を支援した。
34	農林水産部	林業再生県産材利用促進事業 (木質バイオマス利用施設等整備事業)	継続	182,699	林地残材等の安定取引に基づき木質バイオマス利用施設を整備する経費の一部を支援した。
35	土木建築部	生活排水処理施設整備推進事業 (下水道整備緊急促進事業) (農業集落排水整備推進事業) (漁業集落排水整備推進事業) (浄化槽市町村整備推進事業) (浄化槽設置整備事業)	継続 一部特枠	317,791	大分の恵み豊かな水環境を保全するため、県費交付金及び補助金の助成により市町村の財政負担を軽減し、県と市町村が連携して生活排水処理率の向上を図った。 H26予算額 127,274千円 (内一部特枠 62,794千円) H17.18.19.20.21.22.23.24.25債務負担額 190,517千円
36	土木建築部	農業集落排水事業	継続	42,238	農業用排水路の水質保全、農業用排水施設の機能維持又は農村生活環境の改善を図り、併せて公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落におけるし尿、生活雑排水等の汚水を処理する施設を進めた。
37	土木建築部	既設県営住宅改善事業 (全面的改善事業)	継続	130,440	公営住宅のストックの居住水準の向上と総合的な活用を図るため、建て替えのほか、既存ストックを有効活用する全面的改善によるストック整備を行った。 事業年度 H24～ H26 2棟実施
38	土木建築部	庁舎営繕	継続	448,174	公共用水域の水質保全に寄与するため、県有施設に生活雑排水等も処理できる合併処理浄化槽を整備した。
39	企業局	ダム湖水質保全対策事業	継続	6,912	芹川ダムにおいて、噴射衝撃装置を用いてアオコの物理的除去を実施した。
(39事業)		小 計		2,169,183	

# 平成26年度実施事業の取組結果

## 3 地球環境問題への取組の推進

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	生活環境部	地球温暖化対策推進事業 (地域環境保全基金：14,357) (緊急雇用基金：4,233)	継続	19,538	県内のCO <sub>2</sub> 排出量削減のため、家庭及び事業所に対し、省エネ・節電セミナーの開催や、省エネ診断等を実施することにより、家庭・業務部門のCO <sub>2</sub> 削減を図るとともに、ノーマイカーウィークやエコ通勤割引の実施により運輸部門のCO <sub>2</sub> 削減を推進した。また、市場メカニズムを活用し、家庭における節電や省エネ製品の購入や環境ボランティア活動への参加によるCO <sub>2</sub> 削減量にポイントを付与し、CO <sub>2</sub> 排出抑制を促進する九州版炭素マイレージ制度を推進した。
2	生活環境部	防災拠点再生可能エネルギー導入事業 (地域環境保全基金：26,363)	継続	29,841	県民の安全・安心のため、災害時の初動体制を確実に担保し、防災機能の強化を目的に、庁舎等の防災拠点における非常時の電源を再生可能エネルギーで賄えるように、太陽光発電システムや蓄電池等を導入し、自立分散型エネルギーシステムの導入を促進した。
3	生活環境部	節電・省エネ対策推進事業 (地域環境保全基金：3,459)	継続	3,233	節電・省エネ行動等の実践と普及を図るため、節電の広報や、県庁舎緑のカーテンの設置及び緑のカーテンフォトコンテストの実施等により県民の節電・省エネ意識の高揚を図った。
4	商工労働部	新エネルギー導入総合支援事業	継続	20,086	再生可能エネルギーの導入促進を図るため、地域が主体となって取り組むモデル事業を支援した。また、将来有望な水素エネルギーについて、事業性の検討を行うとともに、次世代エネルギーパーク等の普及啓発や、新エネコーディネーター配置による導入相談や各種手続のサポートを行った。 ・モデル的な再生可能エネルギー発電施設への支援(3件採択、内2件繰越)
5	商工労働部	エネルギー産業参入促進事業	継続	150,000	温泉熱発電など大分県の特徴ある再生可能エネルギーの導入促進及びエネルギー関連企業の事業拡大を図るため、県内金融機関等と組成するファンドに出資した。
6	商工労働部	コンビナート企業国際競争力強化対策事業	継続	1,854	コンビナート立地企業の国際競争力強化を図るため、大分コンビナート競争力強化ビジョンに沿ってコンビナート内のエネルギー・副生成物の最適化などについて検討した。
7	農林水産部	木造建築物等建設促進総合対策事業 (公共建築物等地域材利用促進事業)	継続	244,647	県全体での木材利用の促進を図るため、木材利用の普及啓発につながる公共建築物を整備する取組に対して支援した。
8	農林水産部	木造建築物等建設促進総合対策事業 (地域材活用住宅建設促進事業) (森林環境保全基金：2,553)	継続	2,020	横架材へのスギ利用に対する普及啓発を行う工務店に支援した。(28件)
9	農林水産部	森林環境保全推進事業 (再掲)	継続	306,164	森林環境を保全し、県民意識の醸成を図るため必要な経費の財源を確保することを目的に導入された森林環境税の税収及び使途を明確にするため、森林環境保全基金として積み立てし、税収の一元的な管理を行った。
10	農林水産部	みんなで支える森林づくり推進事業 (再掲) (森林環境保全基金：8,899)	継続	4,633	森林環境税の適正な運営・管理を行うため、「森林づくり委員会」を開催した。「県民総参加の森林づくり」を推進するため、「豊かな国の森づくり大会」を開催した。育林等の新技術開発のため「新たな育林技術研究開発事業」を実施した。
11	農林水産部	森林づくりボランティア活動促進事業 (再掲) (森林環境保全基金：26,328)	継続	25,226	森林ボランティア活動を推進するため、森林ボランティアのための研修会(初級1回、中級1回、上級2回)を開催した。県民による森林づくり提案事業を推進した。
12	農林水産部	小水力発電施設整備事業	継続	119,700	農業水利施設を活用した小水力発電の施設整備及び導入支援を行った。(現在、由布市元治水地区等で実施中)



番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
13	警察本部	交通安全施設整備事業 (LED 化事業)	継続	95,746	交通信号灯器 (車両用75箇所、歩行者用4箇所) を省エネ型の LED 式のものに切り替える。平成25年度末で県下2,162箇所の信号機のうち車両用746箇所 (5,321台)、歩行者用589箇所 (3,473台) に LED 式灯器を導入した。
14	病院局	屋上緑化事業	継続	119	病院本館3階の事務室～部長室の南側の外来棟屋上に幅約70mのネットプランターを設置し、ゴーヤを植栽した。 ゴーヤの緑のカーテン効果により事務室等の気温上昇を緩和し、執務環境の改善と省エネを図った。
(14事業)		小 計		1,022,807	

#### 4 環境・エネルギー産業の育成

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	商工労働部	中小企業金融対策費 (地域産業振興資金・環境保全対策融資)	継続	134,722	大気汚染、水質汚濁などの処理施設等、環境保全のための施設設置やエネルギー対策として新エネルギー施設等を導入する中小企業を支援するため貸付原資を金融機関に預託した。
2	商工労働部	地熱フル活用おおいた新活力創出事業	特別枠	142,182	地熱・温泉熱エネルギーの有効利用を進めるため、県農林水産研究指導センター花きグループ (別府市) に、温泉を利用した発電設備、農業ハウス、観光用展示ハウスを整備した。 ・湯けむり発電建設委託 (H26.6 ~ H27.3) ・農業ハウス等設計委託 (H26.6 ~ H26.8) ・農業ハウス等新築工事 (H27.1 ~ H27.8)
3	商工労働部	エネルギー関連新成長産業育成事業	継続	33,395	エネルギー産業を県経済の新たな牽引産業とすることを旨とし、大分県エネルギー産業企業会が行う研究開発、人材育成、販路開拓の活動を支援した。 ・会員数256団体 (H26.8. 末現在) ・WGによる新技術や製品の研究開発に要する経費への助成 (5件採択) ・分野別、目的別の人材育成セミナーの開催 (7回実施) ・展示会 (エコテクノ @ 北九州 (10/8~10/10)) への出展支援 (8企業参加)
4	商工労働部	新エネルギー導入総合支援事業 (再掲)	継続	20,086	再生可能エネルギーの導入促進を図るため、地域が主体となって取り組むモデル事業を支援した。また、将来有望な水素エネルギーについて、事業性の検討を行うとともに、次世代エネルギーパーク等の普及啓発や、新エネコーディネーター配置による導入相談や各種手続のサポートを行った。 ・モデル的な再生可能エネルギー発電施設への支援 (3件採択、内2件繰越)
5	商工労働部	エネルギー産業参入促進事業 (再掲)	継続	150,000	温泉熱発電など大分県の特徴ある再生可能エネルギーの導入促進及びエネルギー関連企業の事業拡大を図るため、県内金融機関等と組成するファンドに出資した。
6	商工労働部	省エネルギー等導入総合支援事業	継続	16,910	持続的な省エネを一層進めるため、省エネ機器とエネルギー管理システムの複合導入といったモデル事業を支援した。 また、省エネコーディネーターを配置し、省エネ設備導入に関する情報提供活動等を行った。 ・モデル的な省エネ設備整備への支援 (採択9件)
7	商工労働部	循環型環境産業創出事業 (産業廃棄物税基金：35,930)	継続	43,930	産業廃棄物等を地域資源として活用する循環型環境産業を育成するため、廃棄物等の再資源化等に係る事業化を支援した。また、県内の環境関連企業を対象に環境ビジネス支援セミナーを開催した。 ・減量化、マテリアルリサイクルに係る設備導入助成 (全4件採択) ・環境ビジネス支援セミナー (全4回) の開催

# 平成26年度実施事業の取組結果

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
8	商工労働部	提案型技術開発受託研究事業（津波ランドオン油汚染物の堆肥由来バイオ処理・再生技術の実証）	新規	2,295	東日本大震災における特定被災区域において、特有关つ深刻な「津波ランドオン油汚染物」（塩分と油分を含む複合汚染土壌等）の浄化処理ニーズに応え、高塩分でも重油を分解する「堆肥由来バイオ処理」技術を実証し、効率的かつ環境負荷の少ない再生利用技術システムの確立を目指す。
(8事業)		小 計		543,520	

## 5 すべての主体が参加する美しく快適な県づくり

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	企画振興部	広報活動費	継続	129,631	環境問題や環境美化活動について県民に対し広報を行った。
2	福祉保健部	老人クラブ助成事業	継続	32,448	一人暮らし高齢者等の見守り活動や清掃奉仕、児童の登下校時の見守り等の地域活動やスポーツ活動などを行う、老人クラブの活動費を助成した。
3	生活環境部	ごみゼロおおいた作戦推進事業 (産業廃棄物税基金 4,268) (地域環境保全基金 1,274) (森林環境保全基金 3,425)	継続	10,422	ごみゼロおおいた作戦を推進するため、ごみゼロおおいた作戦県民会議及びごみゼロおおいた作戦実施本部を開催するとともに、地域のボランティア団体や行政等の連携を促進するため、ごみゼロおおいた推進隊が連携して地域で行うごみゼロ活動等に対して支援した。また、年間を通して計画的に環境学習を行う団体を「ごみゼロ探検団」に任命し支援した。加えて、県民総参加運動の更なる展開を図るため、ごみゼロおおいた推進隊の活動紹介等を行う「エコライフフェア」、県下一斉の美化活動を行う「120万人一斉ごみゼロ行動」や、キャンドルナイトキャンペーン等を実施した。
4	生活環境部	未来の環境を守る人づくり事業	継続	12,074	地域や学校等における環境教育・学習を推進する環境教育アドバイザーの派遣を行うとともに、大分県地域環境保全基金へ寄附されたレジ袋無料配布中止の取組による収益金を、就学前幼児向け環境教育等に活用することにより、環境保全活動に自主的、継続的に取り組む人材の育成を推進し、レジ袋無料配布中止の取組への県民理解の一層の浸透を図った。
5	生活環境部	水環境保全活動ネットワーク化促進事業	継続	2,700	第1回アジア・太平洋水サミット開催により高まった県民の環境保全活動に対する意識をさらに向上させるとともに、NPO、大学、企業などの連携強化による水に関する知の集積と情報発信を行った。
6	土木建築部	クリーンロード支援事業	継続	15,859	道路愛護団体（ボランティア団体や地元自治会等）の育成及び道路愛護気運の醸成を目的に、草刈り活動に対する謝礼や花植え等活動への支援を行った。
7	教育庁	森林環境学習促進事業 (森林環境保全基金：3,047)	継続 (一部新規)	3,047	活動の促進を図るとともに、香々地青少年の家の森林を「学びと健康の森」として再整備し森林環境学習の拠点として確立するため調査・整備計画を策定した。 【九重青少年の家】 ○ここのえエコレンジャーキッズ 実施時期：8月（2泊3日）、11月、2月（1泊2日） 延べ参加者：86人 ○森林環境学習指導者スキルアップセミナー 実施時期：6月（1泊2日） 参加者：19人 【香々地青少年の家】 ○学びと健康の森整備事業（新規プログラム開発） 「ノルディックウォークで巡る国東半島宇佐地域世界農業遺産」 実施時期：11月 参加者：32名
(7事業)		小 計		206,181	

6 基盤的施策の推進

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
1	生活環境部	環境保全対策費	継続	1,810	○大分県環境審議会を開催。 ○環境白書を作成。(3月に県HP掲載)
2	生活環境部	環境影響評価指導事業	継続	535	環境影響評価条例等に基づいて事業者が実施する環境影響評価について、技術指導及び審査を行った。
(2事業)		小 計		2,345	

総 計

(単位：千円)

番号	部局名	事業名	事業区分	決算額	事業内容及び取組結果
(109事業)		総 計		7,524,368	

※ 各施策の予算額には、再掲分を含んでいるため、総計の予算額と一致しない